

## 令和 8 年度 石油コンビナート等における 自衛防災組織の技能コンテスト審査要領

### 1 審査者等について

- (1) 審査者は、消防庁特殊災害室の職員（以下「消防庁職員」という。）とする。審査長 1 名、審査補助者 1 名の 2 名で審査を実施する。
- (2) 進行者及び進行補助者は、推薦消防本部の職員とする。

### 2 オンライン審査について

オンライン審査は、審査者がオンラインにて競技の進行状況の確認等を行うため、現地と審査者との間でオンライン通信を行うものとする。なお、オンライン通信の方法及び審査当日の現地におけるオンライン通信による対応要領等については消防庁特殊災害室と推薦消防本部が個別に調整する。

### 3 現地審査について

オンライン審査が実施できない場合又は消防庁特殊災害室が指定した場合に現地審査とし、審査長 1 名、審査補助者 1 名の 2 名が現地に出向し、競技の進行状況の確認等を行うものとする。

### 4 審査者等所掌事務について

- (1) 審査長は、審査事務全般を掌握し、競技の進行が公正に行われているか確認する。
- (2) 審査補助者は、審査長を補助する。
- (3) 進行者は、競技全体の進行を行う。
- (4) 進行補助者は、競技の計時及び審査評価資料の撮影を行うとともに、進行者を補助する。

### 5 審査の範囲、内容、採点方式について

審査方法については、ビデオ審査とし、現地審査時に競技を撮影した審査評価資料を採点するものとする。

#### (1) 審査範囲

##### ア 行動審査

開始報告から終了報告までの間とする。

##### イ 計時審査

進行者の「操作はじめ」の号令の「め」から、進行者が高所放水車（大型化学高所放水車、大型高所放水車又は普通高所放水車をいう）の継続的な放水（放水ノズルからの放水が棒状となったと

き)を確認し、旗を上げるまでの時間とする。

## (2) 審査内容・採点方式

### ア 行動審査

行動審査項目①から⑤の5項目について、減点方式により採点する。

別紙の審査表に基づき、現地審査時に撮影した競技映像を確認し採点を行い、「行動審査点」とする。(※100点配分)

特に、「各隊員等の安全管理」での安全確認、「指差し・呼称」での操作確認、「下命」や「報告」の意思表示など、計時審査にも影響を及ぼす部分に関して、不十分な場合や審査員が確認できない場合でも減点とする。 ※別紙「減点が多く見られる項目」参照。

#### <行動審査項目>

①	各隊員等の安全管理
②	正確で確実な操作及び活動
③	中隊長を中心とした連携活動
④	使用機械器具の精通及び愛護
⑤	士気・規律

### イ 計時審査

計時審査配分点を30点、所要標準時間を5分00秒とし、所要標準時間を超えた場合に、2秒毎に1点ずつ計時審査配分点より減点していき、残りを計時審査点とする。

例：所要時間5分5秒の場合、3点減点となり、計時審査点は27点となる。

## 6 競技撮影方法について

- (1) 記録は家庭用ビデオカメラ、スマートフォン、タブレット等(以下「カメラ」という。)により、解像度はSD(720×480)～フルHD(1920×1080)で撮影された動画及び音声とする。
- (2) 撮影は合計4台のカメラで実施するものとし、配置等にあつては別図1-1、1-2、又は別図2-1、2-2のとおりとする。ただし、設置場所の周囲の状況等から別図1-1、1-2、又は別図2-1、2-2のとおり設置することが困難な場合は、死角が発生しないような位置関係に設置してもよい。
- (3) 別図1-1、1-2、又は別図2-1、2-2に示した各カメラの担当範囲、または当該担当範囲内において使用する車両、消火栓及び資機材等、その取扱いにかかる隊員の動きが直近のカメラ映像で確認できない場合は、減点の対象とする。
- (4) カメラはそれぞれ三脚等により常時固定し撮影するものとする。競技中のズーム操作は行わない

こと。

- (5) 4台のカメラにより撮影される4種類の動画は、開始報告前の中隊長の「集まれ」の号令から終了報告後の解散までを通して、かつ同時に撮影したものとする。

## 7 失格

審査長等が危険であると判断した場合や、競技の続行が不可能と認められる場合は、競技を中止する。

## 8 順位の決定

- (1) 行動審査点及び計時審査点の合計点で、順位の決定を行うものとする。
- (2) 上記(1)において同点の場合は、計時審査の所要時間の短いものを上位とする。

## 9 異議の申立

審査の結果等については、一切の異議の申立をすることはできない。

防災組織名: \_\_\_\_\_

パターン	行動審査項目	減点	回数	小計	【計時時間】	行動審査項目	減点	回数	小計	【計時時間】
A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F ・ G	①各隊員等の安全管理	車両の安全管理不備	3			③中隊長を中心とした連携活動	隊長下命不備	2		
		アウトリガー・ジャッキ 安全管理不備	3				隊員等報告不備	2		
		車両への乗降に伴う 安全管理不備	3				任務分担外活動 (中隊長、機関員を除く)	2		
		使用器具等の 安全管理不備	3				隊長指揮位置不適	2		
		隊長による 安全管理体制の不備	3				下命外行動	2		
		放水塔伸長時、 伸長後の塔体下部移動	3			④使用機械器具の精通及び愛護	器具の投げ捨て	1		
		その他の安全管理不備	2				器具の踏みつけ	1		
	操作確認不備「指差し・呼称」	3			器具の蹴飛ばし		1			
	②正確で確実な操作及び活動	前方車両取扱い不適	2			器具の落下	1			
		後方車両取扱い不適	2			ホース取扱い不適	1			
実際の災害に即してない活動		2			器具のその他の取扱い不適	1				
					⑤士気・規律	転倒	1			
				号令等の誤り		1				
				その他士気・規律の不備		1				
	<b>行動審査減点</b>		<b>行動審査点(A) 持点100</b>			<b>総合審査点(A+B)</b>		<b>表彰回数</b>		
	点		点			点	回			
	<b>計時審査減点</b>		<b>計時審査点(B) 持点30</b>				<b>順位</b>			
	点		点				位			
	<b>計時</b>		分	秒						

※所要標準時間5分を超えた場合、2秒毎に1点減点とする。

## 減点が多く見られる項目

行動審査項目	減点行為	該当項目
①各隊員等の安全管理	・その他の安全管理不備	競技要領 4 (1)ア、オ、キ 4 (4)ア、イ、ウ
コメント	<p>中継バルブ（吸水コック）の開閉確認不足が散見されました。            機関員の専任部分である「バルブ（コック）の開閉操作」等を機関員以外の隊長・隊員が行った場合は、機関員自身が「バルブ（コック）開閉状態の確認」等の安全管理を行わなければなりません。            また、急激な送水操作や消火栓開放によりホースが暴れ、怪我や機器損傷につながる危険がありました。送水をする際は、徐々にバルブ（コック）を開放し、安全操作を心がけてください。</p>	

行動審査項目	減点行為	該当項目
②正確で確実な操作及び活動	・操作確認不備「指差・呼称」	競技要領 4 (1)ア、キ
コメント	<p>各種扉を閉鎖した際は、「指差・呼称」で安全確認を確実に実施してください。            「指差・呼称」はヒューマンエラーを防止するだけでなく、隊員等が現在どのような行動をしているかを他の隊員等に知らせ、情報を共有し、連携を強化する効果があります。</p>	

行動審査項目	減点行為	該当項目
③中隊長を中心とした連携活動	・隊員等報告不備	競技要領 4 (1)ア、イ、ウ、エ
コメント	<p>中隊長及び各小隊長の下命が確実に実施されていた一方で、隊員等の「放水完了」、「放水停止完了」等の報告が隊長に適切に行われていませんでした。            隊員等は、各小隊長へ、各小隊長は中隊長へ操作内容の実施状況や実施結果の報告等を実施してください。</p>	

行動審査項目	減点行為	該当項目
④使用機械器具の精通及び愛護	・器具の踏み付け ・器具の蹴飛ばし	競技要領 4 (1)カ 4 (5)ウ、オ
コメント	<p>ホースや金具の踏み付け、蹴飛ばし及び延長中のホース飛び越えを行ってはなりません。            使用機械器具への愛護意識の低さは、事故の誘因及び機器損傷の原因となります。</p>	

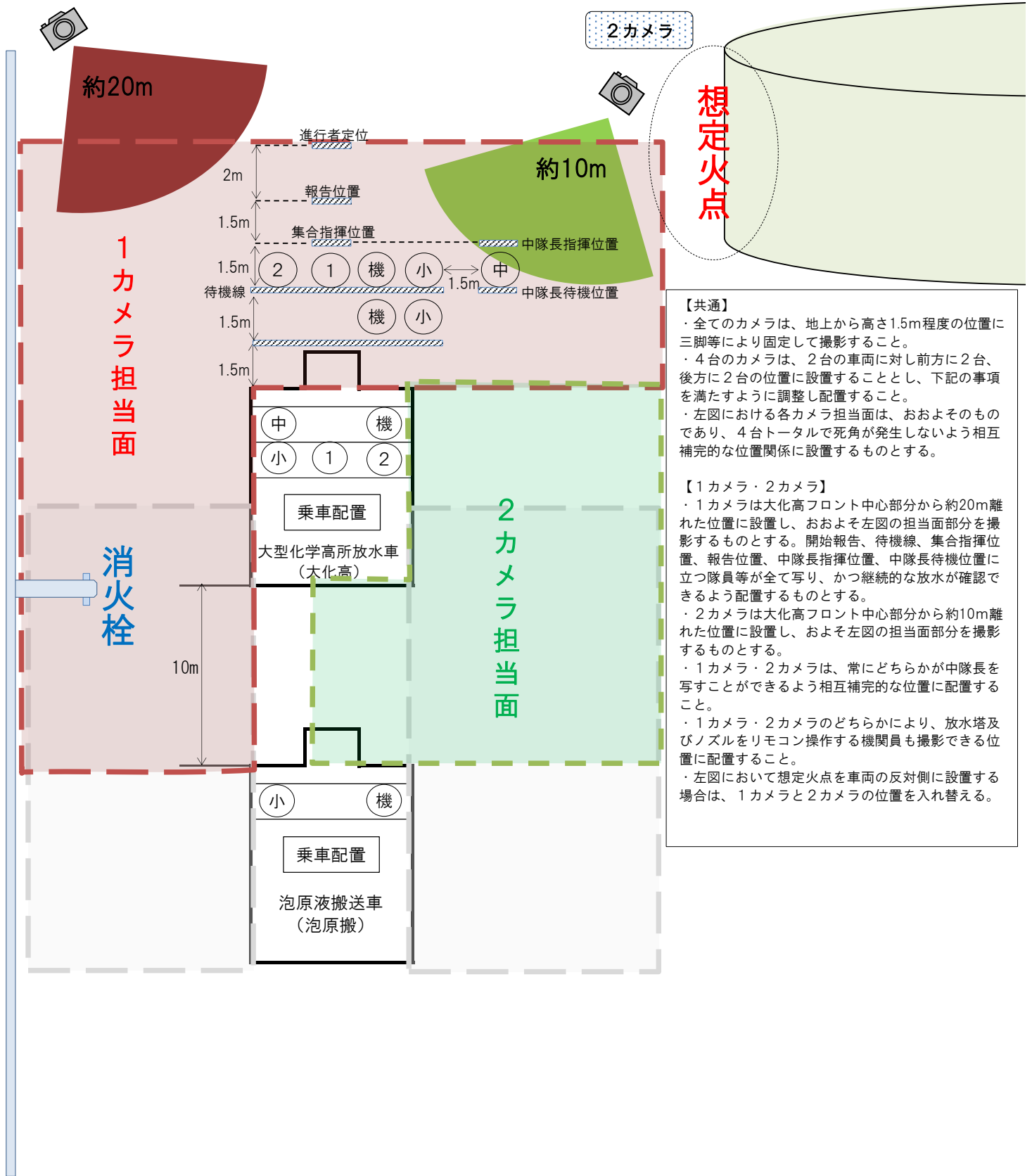
行動審査項目	減点行為	該当項目
⑤士気・規律	・その他士気・規律の不備	競技要領 3 (7)
コメント	<p>全隊員が待機線に集合前に、中隊長が集合指揮位置に移動している場面が見受けられました。本競技要領では、全隊員が待機線へ集合した後に、中隊長が集合指揮位置に移動し「点検報告」と号令をかけることとしております。</p>	

# 競技カメラ配置図例（1カメラ・2カメラ）

別図1-1

1カメラ

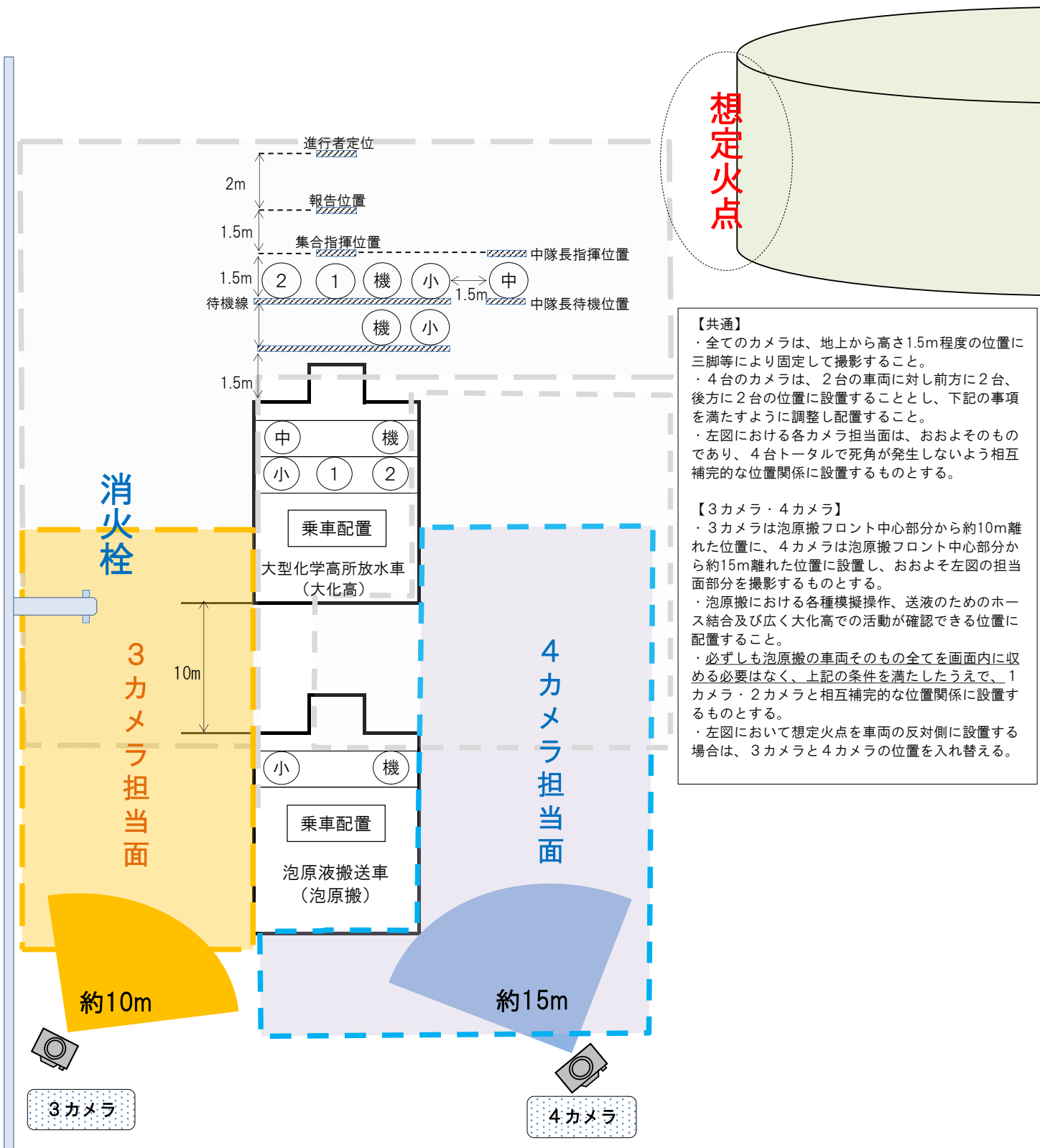
2カメラ



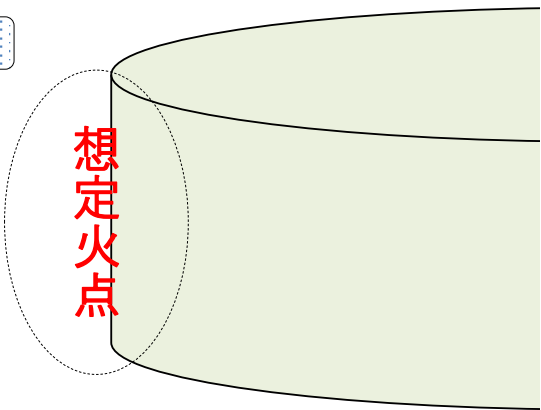
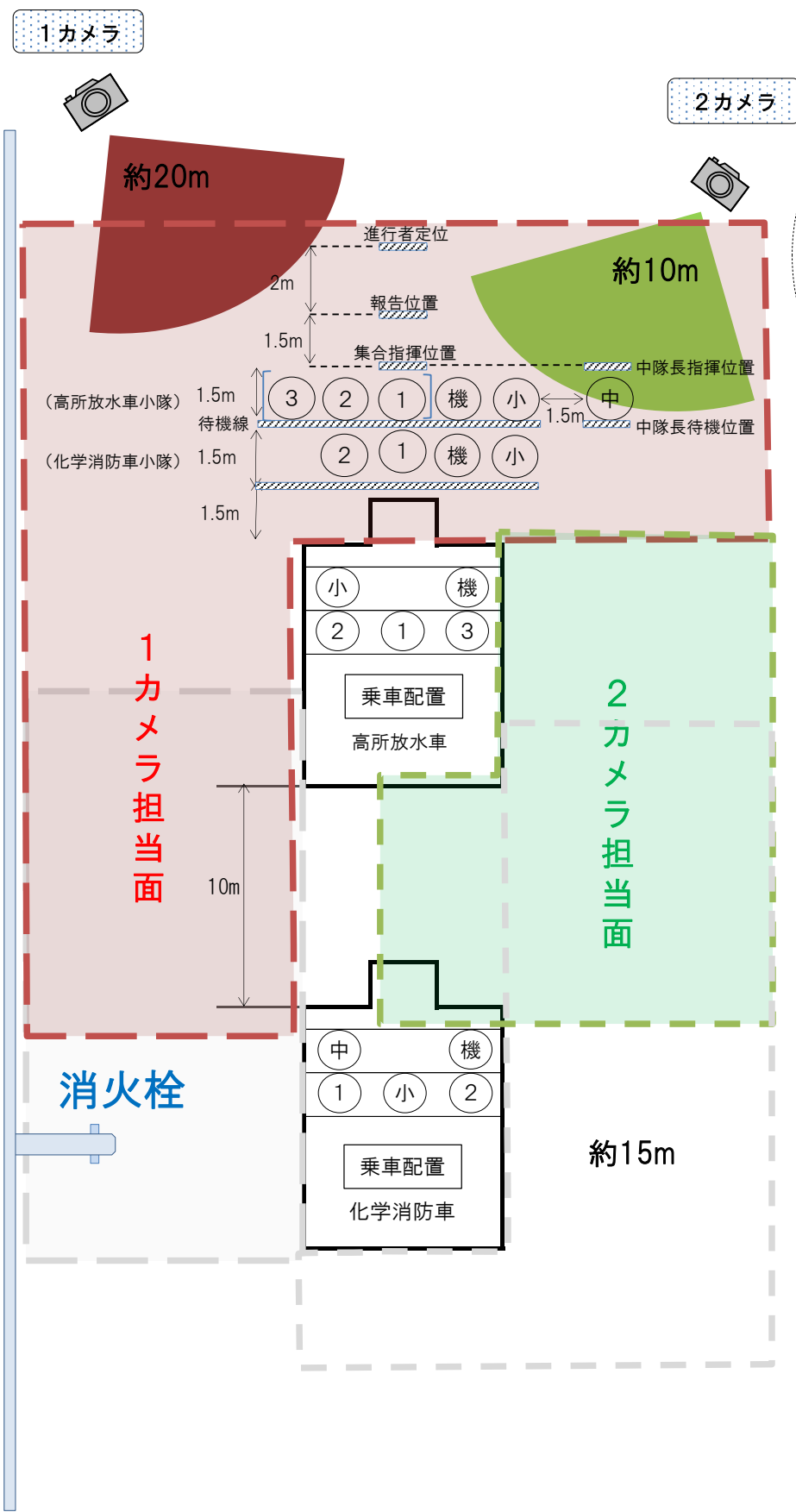
- 【共通】
- ・全てのカメラは、地上から高さ1.5m程度の位置に三脚等により固定して撮影すること。
  - ・4台のカメラは、2台の車両に対し前方に2台、後方に2台の位置に設置することとし、下記の事項を満たすように調整し配置すること。
  - ・左図における各カメラ担当面は、おおよそのものであり、4台トータルで死角が発生しないよう相互補完的な位置関係に設置するものとする。

- 【1カメラ・2カメラ】
- ・1カメラは大化高フロント中心部分から約20m離れた位置に設置し、おおよそ左図の担当面部分を撮影するものとする。開始報告、待機線、集合指揮位置、報告位置、中隊長指揮位置、中隊長待機位置に立つ隊員等が全て写り、かつ継続的な放水が確認できるよう配置するものとする。
  - ・2カメラは大化高フロント中心部分から約10m離れた位置に設置し、おおよそ左図の担当面部分を撮影するものとする。
  - ・1カメラ・2カメラは、常にどちらかが中隊長を写すことができるよう相互補完的な位置に配置すること。
  - ・1カメラ・2カメラのどちらかにより、放水塔及びノズルをリモコン操作する機関員も撮影できる位置に配置すること。
  - ・左図において想定火点を車両の反対側に設置する場合は、1カメラと2カメラの位置を入れ替える。

# 競技カメラ配置図例（3カメラ・4カメラ）



# 競技カメラ配置図例（1カメラ・2カメラ）



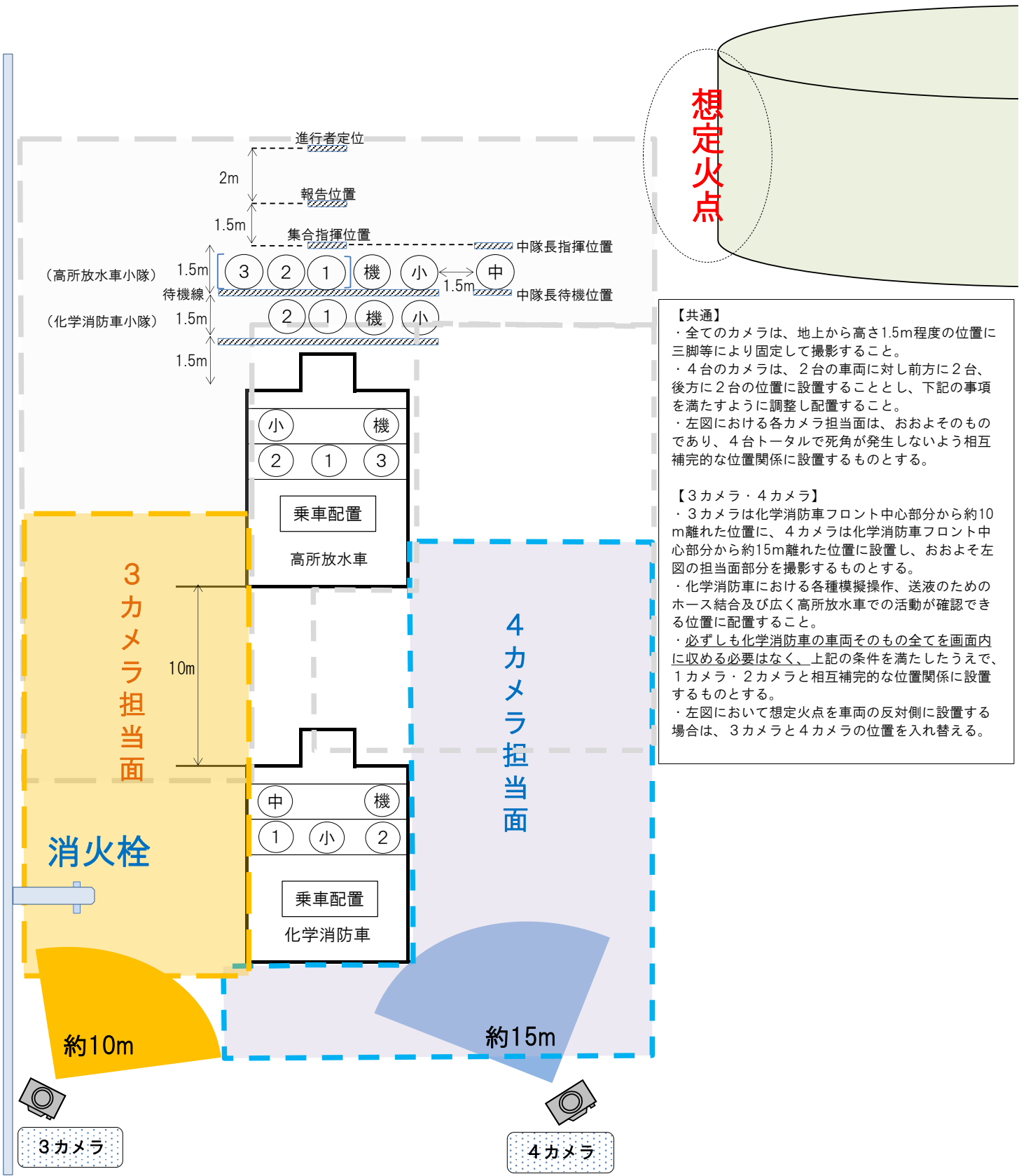
**【共通】**

- ・ 全てのカメラは、地上から高さ1.5m程度の位置に三脚等により固定して撮影すること。
- ・ 4台のカメラは、2台の車両に対し前方に2台、後方に2台の位置に設置することとし、下記の事項を満たすように調整し配置すること。
- ・ 左図における各カメラ担当面は、おおよそのものであり、4台トータルで死角が発生しないよう相互補完的な位置関係に設置するものとする。

**【1カメラ・2カメラ】**

- ・ 1カメラは高所放水車フロント中心部分から約20m離れた位置に設置し、おおよそ左図の担当面部分を撮影するものとする。開始報告、待機線、集合指揮位置、報告位置、中隊長指揮位置、中隊長待機位置に立つ隊員等が全て写り、かつ継続的な放水が確認できるよう配置するものとする。  
(必ずしもノズル及び想定火点は写らなくともよい。)
- ・ 2カメラは高所放水車フロント中心部分から約10m離れた位置に設置し、おおよそ左図の担当面部分を撮影するものとする。
- ・ 1カメラ・2カメラは、常にどちらかが中隊長を写すことができるよう相互補完的な位置に配置すること。
- ・ 1カメラ・2カメラのどちらかにより、放水塔及びノズルをリモコン操作する機関員も撮影できる位置に配置すること。
- ・ 左図において想定火点を車両の反対側に設置する場合は、1カメラと2カメラの位置を入れ替える。

# 競技カメラ配置図例（3カメラ・4カメラ）



**【共通】**

- ・全てのカメラは、地上から高さ1.5m程度の位置に三脚等により固定して撮影すること。
- ・4台のカメラは、2台の車両に対し前方に2台、後方に2台の位置に設置することとし、下記の事項を満たすように調整し配置すること。
- ・左図における各カメラ担当面は、おおよそのものであり、4台トータルで死角が発生しないよう相互補完的な位置関係に設置するものとする。

**【3カメラ・4カメラ】**

- ・3カメラは化学消防車フロント中心部分から約10m離れた位置に、4カメラは化学消防車フロント中心部分から約15m離れた位置に設置し、おおよそ左図の担当面部分を撮影するものとする。
- ・化学消防車における各種模擬操作、送液のためのホース結合及び広く高所放水車で活動が確認できる位置に配置すること。
- ・必ずしも化学消防車の車両そのものを画面内に収める必要はなく、上記の条件を満たしたうえで、1カメラ・2カメラと相互補完的な位置関係に設置するものとする。
- ・左図において想定火点を車両の反対側に設置する場合は、3カメラと4カメラの位置を入れ替える。